

緑のまちあれこれ

○ 今年のお正月は天気恵まれ、北国分の町は、小鳥のさえずりが聞こえる静かな年明けでした。この町を歩いていると、たわわに実った“みかん”をよく見かけます。手を伸ばすととどきそうな所に、あざやかな黄色の実がたくさん。とても良く町なかに映えています。昔はそんなにみかんの木を見かけることがなかったと思うのですが、これも地球温暖化の為でしょうか。1丁目を通る通学路が外環工事で大きく迂回している所があります。その高台の所に立つと、今まで見たことのない風景に立ち止まりました。4丁目方面がフェンス越しの眼下に広がって見えるのです。今まで何回も通っている道ですが、こんなに見晴らしがいいのはなぜだろうかと、考えてしまいました。小塚山の木々もなくなり、工事現場の建物もなくなっていたからです。以前のように木々が茂る緑豊かな小塚山にもどってほしいと感じたお正月でした。



(S.Y)

- 酷暑のあとの厳冬。身体にこたえないわけはありません。北国分の街角で、そんな中白梅の蕾がふくらみはじめていました。今年もおそらく長い冬の寒気に耐えて、ふくよかな花を開くだろう梅の花でした。
- 新年号の表紙は、例年通り竹内庸悦さんに描いていただきました。ちょっと見たところなにか見馴れない場所のように感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、北国分の外環道です。遠く小塚山も見えています。中矢切から見た現在の外環道建設中の情景です。いま橋になっている所が市川・松戸の市境の、愛宕神社の前の道路です。「森も緑も遠ざかる 文化都市の名と共に」と竹内さんは書かれています。このあたりに市川外環の料金所がつくられることになっています。

■ 編集後記 ■ あけましておめでとうございます、といたいところですが、例年に比しても厳しい新年だといわざるをえない現実です。いつもの新年号の、明るい展望とか、おめでたい記事を載せる雰囲気とはちょっと異なる紙面になってしまいました。端的には、表紙を飾る外環道の工事中の絵が示しています。今年一杯、どんな事柄が展開するのかまったく分からない年始めになりましたが、力をあわせて頑張らしましょう。

緑のまち

— 北国分だより —

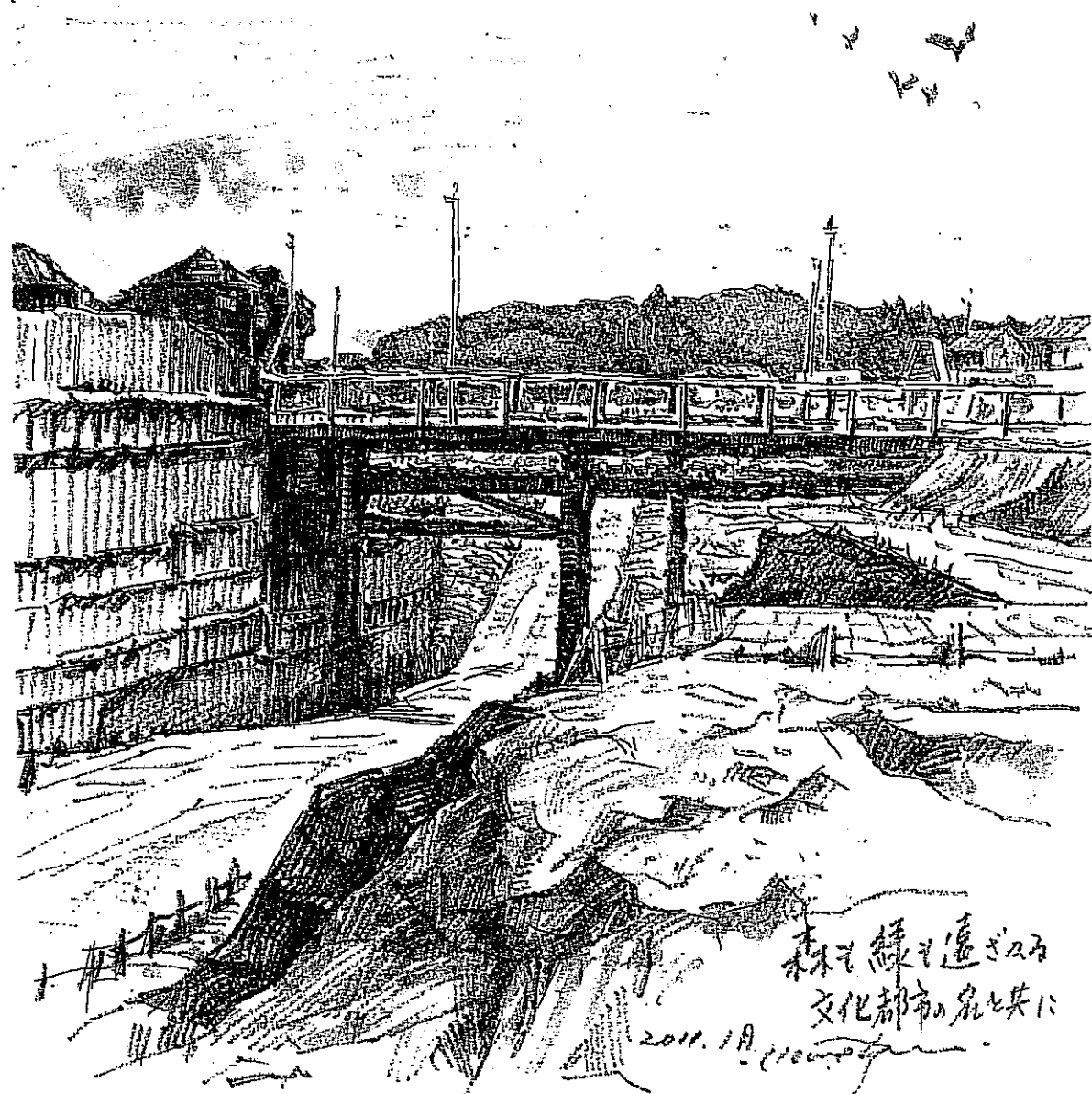


編集 北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-29-12 越田方
Tel 047-372-8936
www.midorinomachi.net

第96号 2011. 1.20 発行

春 頌

2011年



森も緑も遠ざかる
文化都市の名と共に

2011. 1月

小塚山周辺・外環工事の現状と今後 2



石居 隆行

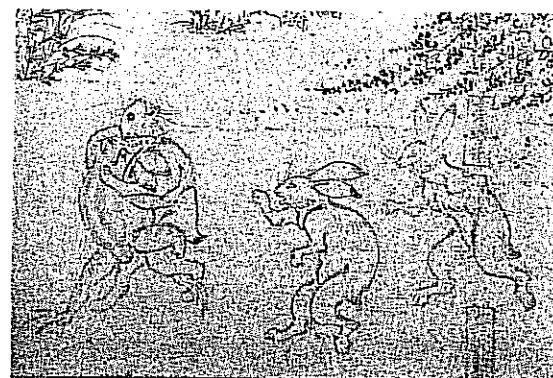
昨年初めにご報告させていただきましたが、政権交替後も外環道路工事は着々と進行中です。

下矢切付近では、地盤面から 10m 以上の深さで掘削が行われ、大量の土砂が搬出され、その巨大なスケールに圧倒された方も多いのではないのでしょうか。そこに、その先にほぼ完成された北総線交差部のコンクリート構造躯体と同様なものがこれから構築されます。そのコンクリート容量から察すると、付近の夏の気温上昇は計り知れないものとなるのではないのでしょうか。私の住む小塚山では、今年の段階で構造躯体がほぼ完成され、工事車両用道路のアスファルト舗装等により、土の表面がかなり覆われてしまい、躯体容量の蓄熱と、地表面の反射熱により、夏の暑さは想像を絶するものがありました。

小塚山では、防音ハウスの解体も終了し、いよいよ小塚山と北総線交差部のコンクリート躯体がジョイントする作業が開始されます。現在、次々と大型重機が再び設置されています。また震度 3 くらいの揺れを伴うような工事が始まるのではないのでしょうか。村岡先生の野鳥の観察報告からも、小塚山周辺部の環境悪化は、もう既に始まっているようです。道免き谷津も下矢切同様、かなりの掘削工事が進行中です。ユニディ菅野店に隣接する公民館も解体に入りました。国分操車場から菅野付近の方々も戦々恐々ではないのでしょうか。

新聞報道(朝日新聞 12/17 千葉版)でご承知の方も多いかと思いますが、12月16日に、馬淵国土交通大臣がとうとう土地収用事業認定を告示してしまいました。政権交替前では「外環道の必要性や採算性に問題があることを認識されただけに大変失望させられた」(高柳先生の新聞コメント)。八ツ場ダムの方針転換を始め、民主党の厚化粧も剥がれ落ち、期待が大きかっただけに失望も大きいものとなりました。わずかな望みとすれば、外環連合・外環反対連絡会が3年にわたって働きかけてきた公害調停で、調停案が受諾勧告、調停案公表(朝日新聞 12/23 千葉版)という結果に至りました。深読みすれば、16日に事業認定が告示されたので、県公害審査調停委員会は、その後の22日に受諾勧告および公表しても大勢に影響がないと考えたのかもしれませんが。しかし、私も末席ながら調停に参加させて戴き、皆さんと幾度となく粘り強いやり取りの中で、最低限の調停案は受け入れていただいたと解釈しております。今後は、これを基に異議申し立ての準備を進めるということです。お役所では責任逃れに窓口担当者がよく変わります。いま政局も安定せず、大臣の交替は日常茶飯事です。その度に反対連絡会の方々が繰り返し意見を主張し続けるのも非常に根気が要る作業です。

いま一度、皆さんで考えてください。巨大なコンクリートの塊が「いちかわ」を二分します。前述のとおり「北国分」では開通前で既に環境への影響が出ております。開通後は、瞬時に周辺部 500m 付近まで大気汚染が広がり、時間の経過とともに市内全体へと拡散されます。答えは、いずれ虫や野鳥たち自然が教えてくれることなのでしょう。残念ながら、東の鎌倉と呼ばれた「市川」も、過去のものとなりつつあります。



今年卯年。兎に関する昔話や諺に、「兎と亀」とか、「因幡の白兎」とか、「二兎を追うもの一兎を得ず」など、兎には、走ることに関わるイメージが強いようです。

「鳥獣戯画」は、平安末期に製作された兎や蛙が活躍する話の絵巻物で、動物の愛くるしさがよく描かれています。

新春詠

律儀なる色をつくして 藪柑子

石川 みさ子

降るやうな星を抱きて 山眠る

山本 愛子

露座佛の遠きまなざし 初菫

灯明に 一灯加へ年守る

井澤 禎子

福耳の 母を重ねし 初鏡

釜鳴りの 湯相ほどよき初点前

公害調停 受諾勧告を公表

外環公害調停については、2007年以來外環連合・外環反対連絡会が県公害審査委員会に調停を申請し、永い時間をかけてのやりとりの末、県審査会の調停委員会（委員長：佐野善房弁護士）は、4項目の環境影響調査を行うなど、2010年12月16日の調停案を国と東日本高速道路会社（被申請人）と外環反対連絡会（申請人）に対し受諾するよう、12月22日勧告したと公表しました。

この勧告では住民側が主張する北千葉ジャンクション（成田空港と外環を結ぶ予定高速道路 市川市堀之内）など9ヶ所で騒音や大気汚染の影響予測調査を実施し、住民説明会を行うことを国側に要請しています。また小塚山トンネルの建設工事で、夜間・早朝の重機を使用しないことを求めています。ただし小塚山トンネルは昨年12月に完工し、夜間工事に関しても住民からの直接の声を「緑のまち」に発表されており、証文の出し遅れで、国も公式にはあくまでも否定を通していますが、実態は認めています。

調停委員会は非公開で、その内容が一般には示されないこと、申請人側と被申請人側それぞれが譲りあって合意を形成することが原則なのですが、調停の問題が解決されない場合、調停委員会が必要と判断した時、申請人・被申請人相互に“あるべき解決の形”を調停案として提示する例外的な措置を法律で定めています。つまり受諾勧告が公表されたということは被申請人である国と東日本高速道路会社が調停を受け入れていない現状を示しており、調停委員会の勧告がジャンクションやインターチェンジ、蓋掛け部分の出入口など、特に影響の大きい特殊部分周辺について模型実験や風洞実験を取り入れた科学的な環境影響予測を行って、住民との協議の場を設定する必要性を調停委員会が認め、国側がそれに応じなかったことの結果なのです。

申請人側はこれまで調停委員会で理論的には納得できないことも最大限に譲って調停案の進展に努めてきたのですが、被申請人側の国土交通大臣がこれをどう判断するかが最大の問題点となります。

12月23日の「読売新聞」京葉版には『外環道 調停案受諾を勧告』の大見出しと『県公害審 環境影響予測を実施』の見出しを掲げ、コメントとして高柳俊暢代表が「調停委員会が外環の環境問題が未解決であると認めたことにほかならない」としているのに対し、国土交通省首都国道事務所は「調停案の内容を見ておらず、コメントできない」としています。

12月16日に告示された国の土地収用事業認定問題を含めて、マスコミのこれからの動向をさらに注目してゆきたいと思います。

（西畑 健一）

初冬の花 ヒイラギ

谷口 浩之

緑のまち北国分に新しい家が建てられています。12月にはいと、ハイカラな玄関の扉にクリスマスツリーの飾りが目につくようになりました。若い人が住んでいるようです。よく見ると赤い実をつけたヒイラギ（柊）の葉がみえます。今の季節に赤い実を付けているということは西洋柊のようです。

日本の柊は晩秋から初冬にかけ花が咲き、初夏に黒紫色の実をつけます。

地元のある農家の脇を通った時、ほのかな香がしました。それは、キンモクセイに似た小さな白い花を付けた柊でした。雌雄異株で、私が見た柊の花はおしべが2本長く突き出ているので、雄木だったのでしょう。

葉は硬く光沢があり、ふちには鋭いトゲがあります。柊といえばトゲです。このトゲは若い葉の時にあり、外部からの侵入を防ぐために昔から生垣に植えられてきました。どういふわけか、近くの児童公園にこのトゲトゲの木が植えられています。場違いな気がしました。

2月の節分で、ヒイラギにイワシの頭を付ける習慣がありますが、どんな意味があるのでしょうか。地元で民俗学を研究されている文化庁文化審議会専門委員の萩原法子さんにお聞きしたところ次のような文をいただきました。

「節分は太陽の運行を基準にして、一年を4つの季節に分けた時の分け目をいい、立春、立夏、立秋、立冬それぞれの前日をいいましたが、現在は立春の前の日のみをさします。その理由は立春は年の改まる日、立春正月という認識があるからです。今でも節分の夜を大晦日を表す「年越し」と言うお年寄りの方が地元にもいらっしゃいます。

正月様を迎える前に邪気を祓うという必要性から、鬼を邪気の代表とし、トゲのあるヒイラギにイワシの頭を付け、玄関など戸口に刺します。イワシは焼くと臭くなるので、ヒイラギのトゲと魚の臭いにおいて邪気を祓うのです。この習俗はヤイカガシと呼ばれ、全国に見られます。「せつぶん」という狂言にも、節分の日、豆を食べに蓬萊の島からやってきた鬼が、せどの門のヒイラギに目をつき、アイタ、アイタと語る詞章があります。

ヒイラギはモクセイ科で、キンモクセイが10月に咲き、ギンモクセイ、ヒイラギがモクセイ、ヒイラギと続き、秋を彩ってきました。



こうのだい九条の会

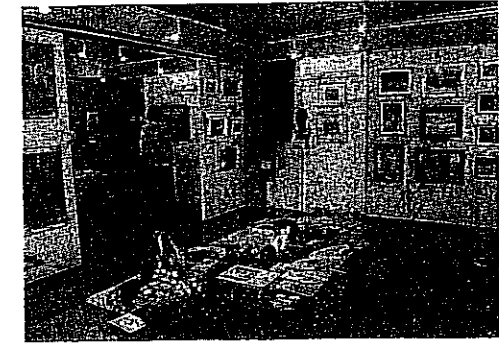
秋の文化展

ご協力ありがとうございました



北国分・堀之内・国府台・中国分地域で活動している「こうのだい九条の会」です。

「緑のまち」前号でお知らせさせていただいた第3回秋の文化展(2010年11月27日～12月5日 会場:国府台3丁目スペース園)は無事終了することができました。ありがとうございました。みなさまのご協力で、64人の方の幅広い創意ある122点の作品を展示する



ことができました。また、地域の307人の方々に観賞していただき、本当にありがとうございました。来場者から「昨年より作品が増え、内容も充実してきた」「一つの分野だけでなく、たくさんの種類の作品があって、見るのも楽しみ」などの声が寄せられました。

次回も引き続いて開催したいと考えておりますので、その節は是非みなさまの出品をよろしくおねがいいたします。

「こうのだい九条の会」は、結成以来2年半になりますが、一層多くの方に活動趣旨をご理解いただき、戦争のない平和な世界をめざすため、憲法九条を守り、生かしていきけるよう行動していきたいと考えております。

市川こうのだい「九条の会」文化展にふれて想う

菅野 順子

里見公園のいちょう・紅葉が深く秋色にそまらかけた昨年11月27日、スペース園での、こうのだい「九条の会」文化展を訪れた。主催スタッフの方から「今年は出点作品を是非」と毎年声を掛けて頂くが、もっぱら鑑賞を楽しみにしている一人だ。作品の搬入や名札付け、飾り付けに丸二日を掛けて準備し、スタッフの熱気が伺えた。当日会場狭しと集まった作品を覗いてびっくり、その数と種類には圧倒された。一点一点の作品から受けたパワーはなんだろう。平和を願う気持ちや、国府台付近の自然を愛した人々の想いの結晶なのか。「来年こそは何か出品できたらなあ!」と、里見公園の桜並木を後に、「憲法九条を守って育てて行かなければ」と、改めて思った。

□バードウォッチング 報告□

日時:平成22年11月28日(日)

天候:晴

参加者:小沢 川上母娘 越田 佐々木 篠田
島田 鈴木 鈴木 谷口夫妻 古川夫妻
三好 村岡 計15名



確認された鳥:

カワウ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ
ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒヨドリ
モズ ウグイス シジュウカラ メジロ ハシボソガラス
ハシブトガラス 計18種

コメント:

好天に恵まれ、紅葉の中の探鳥会となりました。特にじゅんさい池のもみじはすばらしい眺めでした。モズもその美しさを競っておりました。じゅんさい池のカモは例年の3分の1以下でしたが、何かあったのでしょうか、気になります。 村岡幸生

次回 2月27日(日) 小塚山あずまや 10時集合(雨天中止)

お気軽にお出かけください。

バードウォッチングに参加して

鈴木 欣三

11月28日、今シーズンはじめてのバードウォッチング。この日は朝から雲ひとつ無い快晴で暖かい小春日よりとなりました。

小塚山公園の東屋を出発して園内をゆっくり一周してフィールドアスレチックの横の道を行きます。そしてじゅんさい池公園が終点です。小塚山公園やじゅんさい池緑地の雑木林では落葉が始まったばかりで、林内は暗く、主に鳴き声で、ハシブトガラス・ハシボソガラス・ヒヨドリ・メジロ・シジュウカラ・コゲラ・キジバト・ウグイスの8種を確認。

じゅんさい池公園は紅葉の見頃になっていました。ここではカワセミ・モズ・カルガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ハシビロガモ・キンクロハジロ・ホシハジロ・ユリカモメ・カワウの10種、合計で18種を確認しました。

落葉の進んだ次回は、別の種類が見られるかもしれません。